

|    |          |                       |  |
|----|----------|-----------------------|--|
| 校訓 | 自律 敬愛 進取 | 目指す学校像<br>[スクールミッション] | <ul style="list-style-type: none"> <li>■生徒の将来の幸せのために支援および指導し、生徒が成長できる学校</li> <li>■実践的な水産教育を行い、社会の形成者として有為な人材を育成する学校</li> <li>■産官学と連携し、水産・海洋関連産業や地域産業に貢献する学校</li> <li>■地域と協働し、地域の担い手の育成等、地域の期待に応える学校</li> </ul> |
|----|----------|-----------------------|--|

| 評価計画                       |   |  |                | 自己評価  |           |  | 外部評価           |    |    |   |   |  |
|----------------------------|---|--|----------------|---|-----------|--|----------------|----|----|---|---|--|
| 重点目標                       | 短期(本年度)努力目標                                 | 目標達成のための方策   | 担当<br>及び<br>主管 | 取組と達成状況   | 評価<br>達成度 | 改善<br>策  | 学校関係者評価<br>11名 |    |    |   |   | 提言・コメント  |
|                            |   |  |                |   |           |  | A              | B  | C  | D | E |  |
| 1.わかる・できる授業の展開             | ①昨年度スタートした新しい学習指導要領(一人一冊)に合わせた授業評価を定めて実施する。 | ・新しい学習ツールに対応した適切な授業を行い、定着を図る。<br>・公開授業を通じ、ICTスキルの向上を図り、授業改善に繋げる。<br>・新学習指導要領に対応した適切な学習評価を行う。<br>・目的を明確にし主体的な授業を行い、ICTを利用した授業を展開する。<br>・生徒の実態をふまえ、ICTも活用しながら全ての生徒にとって「わかる」指導方法を工夫する。  | 教科<br>各科       | ・2学期にICT機器の活用など目的を持って公開授業を実施することができ、先生方が考えるきっかけを作ることができた。<br>・観点別評価について、見直すことがあまりできなかったため、次年度の課題として取り組む。                      | B         | ・公開授業の回数を増やすことを検討する。<br>・評価方法が適切であったか検討し、次年度に繋げる。  | 1              | 9  |    |   | 1 | ・ICT機器の活用の有効性や効果について評価する指標が必要ではないか。<br>・外部講師を招いた授業や外部と連携した授業を実施し、学校外の人から学ぶ機会を増やしてはどうか。   |
|                            | ②わかりやすく、きめ細やかな授業を実践し、基礎学力の定着および学力の向上を図る。    |  | 教科<br>各科       | ・総合実習時に端末を使用し、授業の振り返りなどを行った。<br>・全体指導だけでなく、必要に応じて個別の補習も行いながら基礎学力の定着を図った。また、特別支援の観点からもICTの活用に取り組んだ。                            | B         | ・次年度は1年生から3年生まで生徒用端末が配布される。授業時に継続して活用するとともに、端末上で課題をやりとりするなど自宅での活用方法を検討する。                    | 1              | 9  |    |   | 1 | ・生徒の個人端末の持ち帰りや充電状況はどうか。また、教員の負担が増えたが、専攻科生も今後個人端末を持つようになるのか。<br>・外部の方と接する機会を多くすると、挨拶やコミュニケーション力が高まるのではないかと。<br>・言葉遣いについては、教室での授業の中で教科学習と絡めて習得させる方法も必要である。髭という言葉も、教養・知識として伝える方が好ましい。<br>・生徒指導については、教員全員が同じベクトルで指導することが大切である。<br>・部活動の入部率が高まると学校に活気ができて良いのではないかと。 |
| 2.社会人としての基本的確立             | ①あいさつ、返事、傾聴を大切にし、コミュニケーション能力の育成を図る。         | ・全校生徒が取り組めるあいさつ運動を行う。<br>・服装やあいさつ、時間を守るなど社会人として必要な資質を育成する。<br>・心身の健康問題の早期発見に努め、適切に支援する。<br>・社会人としての必要な資質の育成と基本的習慣を確立させる。<br>(服装・頭髪・携帯電話についての規則を守らせる)<br>・妥協のない態度で授業を行い、授業を大切にし、ルール守らせる。  | 生指<br>舎務<br>各科 | ・挨拶については、生徒会を中心に朝のあいさつ立番などをおこない、少しずつ改善しているが、言葉遣いに関して全校生徒で考え実行できる取り組みは不十分であった。   | B         | ・生徒会を中心に、挨拶や言葉遣い、公共での振る舞いなどについて生徒自身が考え行動できる企画を計画する。<br>・寮生の服装やあいさつについて、毎月自己の振り返りを実施する。       | 1              | 10 |    |   |   |  |
|                            | ②生徒の自己理解の促進を図り、前向きな学校生活に繋げる。                |  | 保健<br>生徒       | ・健康問題の早期発見・早期対応に努め、校内関係者やSC、外部機関へ繋げることができた。<br>・上位大会への出場やコンクールでの入賞など、満足できる結果を残した部もあったが、部員不足から満足に大会へ出場できない部もあった。               | B         | ・心のアンケートの実施と評価を確実にを行い、健康問題の早期発見に努める。<br>・部活動の加入率を高めるために、新1年生に対して部活動見学の際に、全ての部活動を廻らせる方法を検討する。 |                |    | 10 | 1 |   |  |
|                            | ③身だしなみ、時間を守る、場相応しい行動をとるなど、マナーを育成する。         |  | 生徒<br>各科       | ・概ね服装については改善されてきた。朝礼時の携帯電話の提出状況も概ね良好である。<br>・授業前後の礼や授業に向かう姿勢など、規律を意識して授業できた。しかし、授業を受ける準備や授業中の私語などについては課題が残る。                  | B-        | ・定期的な頭髪服装検査は継続しながら、一部の生徒については個別指導を増やして対応する。<br>・授業の受け方について共通認識を持ち、一貫した姿勢で生徒に接する。             | 1              | 9  | 1  |   |   |  |
| 3.望ましい勤労観および将来力育成と進路指導     | ①将来の進路を見据えた資格取得や情報提供や指導体制を整備し、結果に繋げる。       | ・資格試験の情報周知を図り、受験案内や申請の支援を行う。また、資格試験用教材の更新と充実を図る。<br>・生徒に目的意識を持たせ、資格取得率向上を目指す。<br>・地元企業セミナーやインターンシップを効果的に実施する。<br>・生徒、保護者及び担任とのコミュニケーションを充実させ、進路目標の早期設定に努める。<br>・進路情報の収集と整理を適切に行い、最新の情報を生徒・保護者および担任へ提供する。<br>・求人票の電子データ化を推進し、生徒端末からのアクセスを可能とする。 | 進路<br>各科       | ・資格試験用教材について、年々充実している。<br>・資格取得率については、補習を実施するなど目標達成に向けて支援できた。   | B+        | ・資格取得用教材について、指導者用教材の充実を図りたい。<br>・補習への参加率を高める手立てを検討する。また、科内で業務分担し計画的な補習を計画する。                 | 2              | 9  |    |   |   |  |
|                            | ②生徒の個性や適性、能力に応じた計画的なキャリア教育を推進する。            |  | 進路<br>各科       | ・セミナーやインターンシップについて、計画通り実施することができた。3年学年別活動や直前指導も進路部以外の教員の協力で効果的に実施できた。   | B+        | ・セミナーやインターンシップ参加企業と生徒の進路希望との組み合わせを行う。  | 4              | 7  |    |   |   |  |
|                            | ③生徒・保護者への時宜を得た進路情報を提供し、早期の進路目標設定を支援する。      |  | 進路<br>各科       | ・進路目標設定の個人差が大きい。目標設定が遅い生徒への情報提供をより早期から実施する。<br>・生徒および教員が端末で求人票を検索・閲覧できるシステムを導入した。   | B+        | ・進路部が集めた情報へ生徒の個人端末からアクセスできる体制を構築する。<br>・求人票閲覧システムについて、さらに使いやすいものに改善していきたい。                   | 1              | 10 |    |   |   |  |
| 4.人権教育、道徳教育、特別支援教育を根拠活動の推進 | ①校内組織及び支援体制を充実し、研修や啓蒙など計画的な取り組みを行う。         | ・計画的に各学年で人権・同和教育LHRを実施する。<br>・定期的に入権・同和教育だよりを発行する。<br>・教職員や保護者を対象に人権・同和教育の研修会を実施する。  | 人権<br>同和<br>教育 | ・予定通り人権・同和教育LHRを実施することができた。<br>・昨年度と比較して、人権・同和教育だよりの発行回数が少なかった。   | B         | ・生徒の実態と時代の流れに応じた人権同和教育LHRを実施したい。<br>・人権・同和教育だよりを学期に2回程度の発行を目指す。                              | 1              | 9  |    |   | 1 | ・石央文化ホールで実施した課題研究発表会や校外販売活動などは、広く市民の方に学校の教育活動を理解してもらうのに効果的であるので、継続してほしい。   |
|                            | ②あらゆる教育活動と共生を促し、人権意識・社会性を身につけさせる。           |  | 人権<br>同和<br>教育 | ・教職員の研修会は、計画通り2回実施できたが、保護者対象の研修会は実施できなかった。  | B         | ・来年度は人権問題の歴史について研修を行いたい。   |                | 8  | 2  |   | 1 | ・浜田市役所における実習製品の販売は、生徒にとっても緊張感があり、社会と触れ合う良い機会であると思う。<br>・浜水便りを町内の回覧板で目にするようになった。学校の教育活動の様子をよくに市民の方に知ってもらうのに効果的であると考えている。  |
| 5.水産・海洋校教育を担う地域と連携する学校づくり  | ①魅力ある教育活動を積極的に情報発信し、生徒募集に努める。               | ・体験入学、ホームページ、SNS等を充実させ、生徒募集を活発化する。<br>・園児・小学生を対象とした体験乗船や課題研究等を通して地域との連携を図る。<br>・生徒による出前授業や出迎え授業を行い、本校の取組を地域に発信する。  | 総務<br>各科       | ・体験入学は2度実施した。アンケートの結果を見ると概ね好評であった。<br>・ホームページやインスタグラム等を活用した情報発信についても好意的な意見が多かった。  | B+        | ・ホームページとインスタグラムの情報の棲み分けを明確にする。<br>・生徒募集や地域へのPRのために、ポスターを作成し配布する。                             | 4              | 7  |    |   |   |  |
|                            | ②地域と学校との連携をよりいっそう深め、開かれた学校づくりを推進する。         |  | 各科             | ・中学生の神海丸体験航海は希望者が多く集まり、好評であった。また、海洋技術科の出前授業も中学校で実施できた。<br>・水高祭りや校外販売等、地域で活動する機会を増やした。また、「ノドグロ給食」も3年目となり、今年度は3つの小中学校で出前授業を行った。 | B+        | ・海洋技術科の課題研究において地域と協働する活動を増やす。<br>・食品流通科では、来年度「広島ふるさとフェア」へ参加し、さらに活動の幅を広げる。                    | 6              | 5  |    |   |   |  |
|                            | ③学校運営協議会のスムーズな推進を図る。                        |  |                |   |           |  |                |    |    |   |   |  |
| 6.新しい時代に対応した取り組みの展開        | ①教職員のICTスキルの向上を図り、より一層の授業改善や業務改善に繋げる。       | ・教員研修などを通じ、ICTスキルの向上を図り、授業改善に繋げる。<br>・SNSを利用した定期的な発信と周知を行う。  | 総務<br>各科       | ・定期的な教員研修や、ICT支援員と連携しながら教員のICTスキル向上に繋げることができた。<br>・先進校への授業見学および情報交換を行い、その後の授業改善に繋げることができた。                                    | B         | ・継続した研修が必要である。教員の二週に沿ったものを計画する。  | 1              | 10 |    |   |   |  |
|                            | ②SNSを活用した情報発信に取り組む。                         |  | 各科             | ・Instagramを定期的に更新し、情報発信できた。   | A         | ・次年度も継続してSNSを活用し情報発信する。  | 9              | 2  |    |   |   | ・今年度Instagramを立ち上げたことにより学校の情報がよく発信されるようになった。情報発信に教員が力を入れていると感じる。   |